

令和 8 年 4 月 24 日

(※受付番号)

大阪市総合教育センター
教育振興担当 実践研究グループ
首席指導主事様

研究コース
A グループ研究A
校園コード (代表者校園の市費コード)
545090

代表者	校 園 名 :	伝法幼稚園
	校園長名 :	柴田依里
	電 話 :	06-6461-0480
	事務職員名 :	
申請者	校 園 名 :	伝法幼稚園
	職名・名前 :	園長 柴田依里
	電 話 :	06-6461-0480

令和8年度「がんばる先生支援事業」申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	新規研究 (1年目)
2	研究テーマ	「やってみたい」と主体的に体を動かすことを楽しむ幼児を育てるための教師の教育的意図をもった働きかけを考える ～就学前教育カリキュラムを活用して～			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を項立てして記載してください。</p> <p>1 遊びや生活を通して、心を開放して体を存分に動かす楽しさを味わう経験を積み重ね、生涯にわたって健康で活力のある生活を過ごすための心身の基盤を培う。</p> <p>2 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための基礎的な知識の習得や、体力の向上を図るための教師の働きかけを考える。</p> <p>3 多様な動きを経験する中で、基礎的な体力を養うとともに、「やってみたい」と思う意欲や協調性、やり抜く力などを育むための教師の働きかけ等を探ることにより、教師の指導力向上を図る。</p> <p>4 上記の研究目的を達成するために、大阪市就学前教育カリキュラムを活用して、「知・徳・体」をバランスよく総合的に育み、幼児の生きる力の基礎を培う。また、本研究・報告を行うことで、大阪市全ての就学前施設に就学前教育カリキュラムを発信し、カリキュラムに基づいた教育の推進につなげ、教育や教員の質の向上に貢献する。(大阪市教育振興基本計画の基本的方向3 幼児教育の推進と質の向上)</p>			
4	研究内容	①研究内容の詳細 ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する			
		研究の方向性	<p>体を動かす遊びを通して、幼児の意欲や主体性の育ちを見据えた保育実践を組織的に深めていくこと。研究の成果をもって、就学前教育の重要性や質の高さを広く周知・発信することを目指す。</p> <p>・近年、社会環境や生活様式の変化によって、幼児が体を動かして遊ぶ場所や時間、機会が減少している。本園の実態においても、体力や姿勢保持力の低下、様々なことに対して意欲をもちにくい幼児が増えている。さらに、「やってみたい」という思いはあっても、難しいと感じると取り組むこと自体を諦めたり、最後まで続かなかったりする姿も見られる。幼児期運動指針では、幼児期に遊びを通して十分に体を動かすことが、生涯にわたる健康や何事にも積極的に取り組む意欲を育む土台になると示されている。これらを踏まえ、教師は幼児の「やってみたい」という思いを大切に、主体的に体を動かす中で多様な動きを楽しんだり、心地よさや達成感を味わったりしてほしいと考え、テーマを設定した。</p> <p>・本園は大阪市の公立幼稚園の中でも園庭が広く、伸び伸びと体を動かして遊ぶことができる環境がある。また、園庭には様々な動きができる総合遊具や大きな築山があり、テラスには全身のバランス感覚が養えるネット遊具がある。このような環境の中で、幼児が多様な動きを体験し、体を動かすことが楽しいと思えるような取組を進める。</p> <p>・幼児の興味や関心、発達の違いなど幼児理解に努め、思わず体を動かしたくなるような環境(遊具や用具、場所や時間の確保)を工夫する。また、体験型幼児教育施設(キッズプラザ大阪)に園外保育に出かけ、園や家庭では経験できない遊びを通じ、多様な動きを体験し、遊びから学ぶ機会をつくる。</p> <p>・遊びや生活の中での意欲を大切に、体を動かす遊びを通して心地よさや達成感を味わい、さらに挑戦する意欲や、やり抜く力を育めるような教師の教育的意図をもった働きかけを行う。</p> <p>・教材研究や実践記録の検討、研究保育に取り組んだり、研修会や他園の研究保育に参加したりするなどし、幼児の育ちを多面的に捉えたり、教育的意図をもった働きかけについて考えを深めたりする。</p> <p>・実践を進める中で、就学前教育カリキュラムを活用して、幼児の育ちにつながった教師の教育的意図をもった働きかけや環境構成について振り返り、環境の再構成や保育の改善、充実を図る。</p> <p>・ホームページや保護者会、地域との交流、研究発表の機会を通して、保護者や地域、他の就学前教育施設や小学校に就学前教育の重要性を広く発信し、幼児期の教育への理解を促すとともに、就学前教育カリキュラムの周知と普及を行い、大阪市全体の幼児教育の質の向上を図る。</p>		
		②継続研究 [2年目] ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する			
③継続研究 [3年目]					



5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>4月【研究企画会】研究テーマ、研究の進め方の確認 役割分担 【研究推進委員会】幼児の実態と課題の把握、保育案の書き方の検討 5月【研究推進委員会】実践記録の取り方検討、年間計画の立案と共有 6月【研究推進委員会】園内研究会に向けての保育内容・指導案検討会 【園内研究会①】討議会・反省会 指導助言 大阪大谷大学 特任教授 7月【研究推進委員会】実践記録検討会 【園内研究会②】討議会 指導助言 大阪大谷大学 特任教授 【研究発信】ポートフォリオ作成、発信 8月【研究大会参加】第74回全国幼児教育研究大会 群馬大会 参加 9月【研究推進委員会】園内研究会に向けての保育内容・指導案検討会 【園内研究会③】討議会・反省会 指導助言 大阪大谷大学 特任教授 10月【研究推進委員会】実践記録検討会、保育内容・指導案検討会 【園内研究会④】討議会・反省会 指導助言 大阪大谷大学 特任教授 11月【研究推進委員会】実践記録検討会 12月【園内研究会にむけて】研究発表について 指導助言 大阪大谷大学 特任教授 【園内研究会⑤】討議会・研究発表について・反省会 1月【がんばる先生支援 研究発表会】研究発表・指導講評・討議会 アンケート実施 指導助言 大阪大谷大学 特任教授 2月【研究推進委員会】がんばる先生支援報告書作成</p> <p>出張を伴う研究会への参加、外部講師を招聘する研修会の実施等、経費執行が必要な取組内容を記載してください。</p> <p>園内研修会の指導助言 講師：大阪大谷大学 特任教授 年6回実施 研究大会に参加し、全国の先生方と討議会で得た知見をもとに研究を進める。</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>①継続研究（2年目、3年目）において検証方法の変更の有無を記入してください。</p> <p><input type="checkbox"/> 変更しない。理由</p> <p><input type="checkbox"/> 変更する。</p> <p>②大阪市教育振興基本計画に示されている、「<u>子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力</u>」の育成および、「<u>教員の資質や指導力</u>」の向上について、それぞれ見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。（いずれかに☑を入れてください）</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成 <input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>就学前教育カリキュラムを活用して、主体的に体を動かして遊ぶ心地よさや楽しさを味わうことができる環境や教師の働きかけを工夫する。</p> <p>《検証方法》 ○保護者アンケートで「お子さまは、遊びの中で体を動かす心地よさを感じていますか」という項目で、肯定的な回答の割合を80パーセント以上にする。</p> <p>【見込まれる成果2】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成 <input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>就学前教育カリキュラムを活用した教育実践の中で、幼児が安心して過ごすことのできるような保育や環境を工夫する。</p> <p>《検証方法》 ○保護者アンケートで「幼稚園は、様々な遊びの中で、伸び伸びと活動できるような指導や環境の工夫を行っていますか」という項目で、肯定的な回答の割合を80パーセント以上にする。</p>

<p>6</p> <p>見込まれる成果とその検証方法</p>	<p>【見込まれる成果3】</p> <p><input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上</p> <p>就学前教育カリキュラムに基づいた教育内容の充実を図り、保護者や地域への周知と理解の方法を工夫する</p> <p>《検証方法》</p> <p>○保護者アンケートで「幼稚園は、遊びを通して、「知・徳・体」をバランスよく総合的に育む保育を実践していますか」という項目で、肯定的な回答の割合を80パーセント以上にする。</p>						
<p>7</p> <p>研究成果の共有方法</p>	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="453 958 1385 1021"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 9 年 1 月 26 日</td> <td>場所</td> <td>伝法幼稚園</td> </tr> </table> <p>◆【必須】 waku^x2.com-bee掲載による共有</p> <p>○掲載の日程（予定）</p> <table border="1" data-bbox="453 1099 970 1162"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 9 年 2 月 5 日</td> </tr> </table> <p>◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 9 年 1 月 26 日	場所	伝法幼稚園	日程	令和 9 年 2 月 5 日
日程	令和 9 年 1 月 26 日	場所	伝法幼稚園				
日程	令和 9 年 2 月 5 日						
<p>8</p> <p>代表校園長のコメント</p>	<p>1. 新規研究（1年目）</p> <p>近年、著しく変化する社会環境や生活様式の中で、幼児にとって遊ぶ場所や時間、日常的に体を動かす機会が減少している。こうした状況は、多様な動きの獲得や意欲の育ちに影響を及ぼすとされており、幼児が伸び伸びと体を動かし、心地よさや面白さを味わう経験は保障されるべき重要な課題であり、就学前教育カリキュラムを活用し、幼児が力強く生き抜く力の基礎を培うことは重要な意義をもっている。幼児が多様な動きを経験できる環境をどう構成し、教師がどう関わることでその育ちを支えられるのか明らかにすることは、現場の実践を支える重要な視点になる。この研究を通して、教育の質向上に資する具体的な視点を示し、教育者が幼児の姿をより深く理解しながら安心して実践に取り組めるよう支えていきたい。また、研究の成果をもって、大阪市の就学前教育の質の高さと重要性について発信、周知していきたい。</p> <p>2. 継続研究（2年目）</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>						